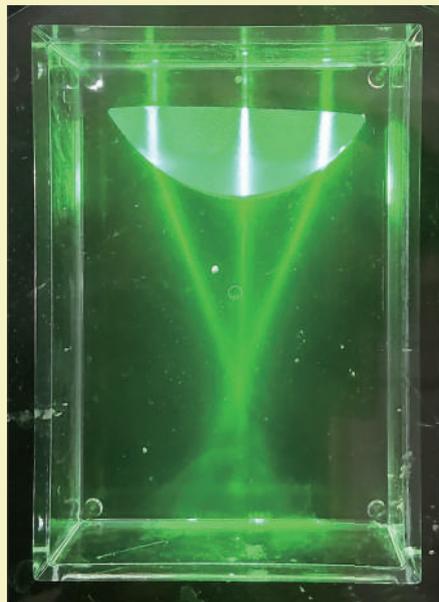


教文通信写真館

光の屈折



左 (空気中の寒天凸レンズの光の様子)

右 (サラダ油中の寒天凸レンズの光の様子)

写真とエッセイ：綿貫 京子さん (理科教育研究会 中野立志館高校)

凸レンズ (虫めがね) は、光を集める」のは常識ですが (左の写真)、それは「凸レンズの屈折率>周 (空気) の屈折率」だからです。では、「凸レンズの屈折率<周の屈折率」だったら、どうなるでしょうか？ (エッセイの続きは7P)

教文通信

発行所
長野県教育文化会議
発行人
田澤 秀子

今号の記事

- 01-5
第4回総合研究会
開かれた学校づくり全国交流集会
- 06-07
第4回教文運営委員会報告
教文通信写真館
第5回総合研究会
(ジェンダー平等を考える)
アーカイブ配信情報
- 08
書籍紹介

全国の仲間と生徒と学んだ 開かれた学校づくり全国交流集会

学校運営に生徒と保護者が参加して教職員と共同して開かれた学校づくりを進める全国交流集会是本年度で24年目となり、12月6日・7日に長野市で開催しました。今回は「開かれた学校づくり全国連絡会」と「長野県教育文化会議」の共催で開催し、子どもの権利条約を生かし、子どもの参加と意見表明権を保障した学校づくりについて取り組んでいる実践を中心に報告をしていただきました。

開会の挨拶で私は次のように述べました。現在、学校現場は教員不足、教職員の多忙化で大変です。また、学



12/6-7

第4回教文総合研究会 開かれた学校づくりin長野

高校会館

開かれた学校づくり全国交流集会 in 長野 集会概要

■ 6日(土) 全体集会

「長野県における三者協議会の実践と
生徒会自治の展開」

<発表者>

- ・松本市立丸ノ内中学校 坂口俊樹さん
「自由服登校プロジェクト」
- ・元松本深志高校 林直哉さん
「生徒会自治と鼎談深志」
- ・岡谷東高校 西澤久美子さん、柳澤欣吾さん、
櫻井玲美さん、生徒のみなさん
「PTS協議会」
- ・県立辰野高校 丸山末広さん、宮下与兵衛さん
「三者協議会」
- ・県立箕輪進修高校 佐藤優奈さん
「箕輪未来プロジェクト」

■ 7日(日) 分科会(3分科会)

①「生徒参加の学校づくり」

<発表者>

- ・佐久市立野沢中学校 井出岳さん
- ・県立小海高校卒業生 由井聖さん 小林嘉孝さん
- ・県立軽井沢高校 五十嵐開智さん
- ・県立伊那北高校 内山由香里さん

②「生徒参加の地域づくり」

<発表者>

- ・県立中野西高校 田中崇雄さん
- ・県立大町岳陽高校 相馬真巳子さん
- ・県立松川高校 菅沼節子さん、木下哲郎さん

③「生徒・学生交流会」

第一部 三者協議会など

生徒による学校づくりの実践報告

- ・私立太平洋学園高校生徒会(高知市)
- ・長野県辰野高校生徒会

第二部 テーマ別意見交流(しゃべり場)

- 1) 生徒会活動・校則改善・学校行事
- 2) 進路選択・大学生活
- 3) 地域とのつながり・ボランティア

校づくりの面でも様々な問題が起きています。生徒と保護者と教職員の関係性が揺らいでいます。例えば、PTAのあり方が全国的に問題になっています。PTAは任意加盟だから入らないという保護者が増え、さらにはPTAを解散する学校も増えていきます。その原因について保護者は「PTAは学校の仕事を押し付け、いつも一方的な学校の説明ばかりで、保護者からの要望は聞いてくれないから」と述べます。そして、文科省の「匿名性を担保した学校評価」でカスハラともバツシングともいえるような保護者の記述が増えているとのことです。

また、文科省の「生徒による授業評価」も同じようにバツシングまがいの記述が増えているとの

ことです。大学生に聞くと「高校まで校則や授業について意見表明して話し合う場がなく、校則改善要望を生徒会で出しても理由も言わずに却下されるから、そうなってしまおう」とのことです。こうした背景には、2006年の教育基本法改訂で新たに「規律教育」が入り、翌年文科省が「問題行動を起こす児童・生徒には毅然とした指導を行うよう」通知したことから、どんどん校則が細くなり、指導が厳しくなっていくことがありま

す。ようやく「こども基本法」と「改訂生徒指導提要」で子どもの声を聴いて校則などを改善していくことが決まりましたが、「スタンダード」指導という規律統制指導が教員・生徒の自由を縛っています。特に義務教育現場でのいじめ・不登校・そして小学校での暴力が急増しています。学校に自由がなく、三者に閉ざされていて、お互いの意見を聞き、話し合うことがないので一方的な攻撃になっているのです。

全体会では、辰野高校・岡谷東高校・箕輪進修高校から、生徒・保護者・教職員の三者で定期的に学校運営について話し合い、校則や授業や施設・設備などを改善している「三者協議会」の実践報告がありました。また、松本深志高校から生徒会自治の取り組みと、生徒会と学校周辺の4つの町内会との意見交換会の取り組みが報告されました。これは部活動の音(吹奏楽など)に近隣住民から苦情が寄せられ、生徒会が町内会に呼びかけて、学校・生徒会・住民の三者による地域フォー

ラム「鼎談(ていだん)深志」を発足させ、話し合いと騒音対策をすすめてきたものです。この取り組みは放送部の生徒たちによって映像作品にまとめられ、NHK放送コンクールで最優秀賞にもなりました。

松本市丸ノ内中学校からは自由服登校の取り組みについて校長から報告がありました。生徒たちが探究の時間で学校の制服の歴史について調べてみると2002年まで自由服登校だったことが分かり、生徒会、PTAと対話を重ねて、服装と校則についての全校討論会を行い「全校自由服登校WEEK」を実施しました。今後は全校アンケータや討論で合意すれば自由服に踏み切るといふことです。

分科会は「生徒参加の学校づくり」「生徒参加の地域づくり」「生徒・学生交流会」の3つのテーマで行いました。「学校づくり」では、中学からは学校スタンダードや管理による同調圧力や「適応主義」に苦しんでいる生徒を励まして意見表明を支え自治的活動をすすめている実践が報告されました。小海高校からは生徒会が全校アンケートを行い制服の校則を変える陳情書を職員会に提出し、10月から5月までの間は男女ともセーターのみで登校できることを実現した報告でした。軽井沢高校からは1999年から続く「三者協議会」で制服問題や施設設備の改善について取り組んできたことが報告されました。伊那北高校からは、探究学習の取り組みから学校づくりや地域づくりに参加していることが報告されました。高校合併の対象校になっていることについて生徒が県教委

の担当者を呼んで討論会をしたこと(その生徒が今回の生徒・学生分科会の運営をした筑波大学の学生です)、市議会議員との交流や駅前開発プロジェクトへの参加などが報告されました。

「地域活動」では、大町岳陽高校生徒会から41年間続けている「アジア・アフリカ難民支援運動」(地域住民から集めた支援物資をバザー用品販売で得た輸送費で送る活動)の報告、中野西高校生徒会からユネスコスクールとして2014年から続けている森林再生の育樹・植樹の活動報告がありました。また、松川高校ボランティア部からは14年間続けてきた「東北・能登支援継続交流活動」(地元のリング農家の手伝いをしてリングを被災地に送る)、「国際交流・支援活動」(イラク・カボジャ・ウクライナの子どもへ)、「満蒙開拓平和祈念館でのガイド・語り部活動」の報告がありました。

「生徒・学生分科会」にはオンラインで全国から30人が参加して、辰野高校生徒会と高知の太平洋学園高校生徒会から「三者協議会」の活動報告を聞き、その後、3分科会に分かれて、①生徒会活動・校則改善・行事、②進路選択・大学生活、③地域とのつながり・ボランティアのテーマ別の話し合いを行いました。

今回の集会には、会場参加とオンライン参加で100名以上の参加がありました。特に教育学を学ぶ大学生が参加して、新たに全国連絡会にも加入する学生が増えたことが大きな成果でした。「開かれた学校づくり」全国連絡会に加入していただけでなく、ホームページで全国の取り組みの様子が分

かります。会費は無料ですので、次のホームページをご覧ください。

「開かれた学校づくり」全国交流集会
実行委員長 宮下与兵衛



12/6
1日目

全体会

- ◆開会行事…あいさつ
- ①開かれた学校づくり全国連絡会 宮下さん
- ②長野県教文会議 田澤さん

◆レポート

- ①松本市立丸ノ内中学校 坂口 俊樹さん
- 「子どもが主人公のやわらかな学校づくり」
- ・令和5〜6年…県学びのパイオニア校
- ・総合的な学習の時間「忠恕の時間」
- 1年…学び方を学ぶ
- 2・3年…自らのテーマを2年間かけてじっくり探究

質疑

☆長野吉田 高橋さん

- ・これまでの服装の規定は?
- 式服があるが、決まった制服はない(自由度の高い制服)
- ・保護者通知に「すぐに移行するものではない」と明記した理由

—保護者の不安感も伺えたため、明記は避けた
 ・「今後の検討」について、その後の進捗状況は？
 —子どもたちと話し合いながら、決めている
 途中（週間を月間にする、など）

レポート② 元松本深志高校教諭 林 直哉さん

「鼎談深志と折衝会」

◎深志の「3つのない」

—校則、体育祭（文化祭に集約）、制服

※生徒の自主性を尊重

◎折衝会（生徒会予算配分折衝）の3つのない

—決定事項は次年度に持ち越さない、説明できない要求は認めない、聖域を設けない（※参加生徒の協議で決定）

◎鼎談深志—地域フォーラム、地域・学校間で問題を解決

（EX学校から出る音に関する意見交換会）

↓成立したポイント

・中心人物が町会長を口説いた

・短期間に5回の訪問

・生徒自身が動いた

・深志に根付いた校風

反対意見はあったが、ストップはなかった

・「生徒は3年、教師は10年、地域は一生」の気持ち

↓現在は—年1回の開催

・毎月のニュースレター配布（今年100号）

・12月に地域住民向けのクリスマスコンサート開催

・避難所、防災、協働ワークショップ

レポート③

岡谷東高校

西澤 久美子さん、

柳澤 欣吾さん、

生徒の皆さん

「PTS協議会」

・2005年高

校再編時にPT

S1回目の転機、

より良い学校に

ついて考える契機に

（岡谷南高校側から、統合への大反対）

・コロナ禍後に復活せず

↓土曜開催による生徒への負担、教員の負担

・2022年2回目の転機

↓PTSの休止or存続

↓「自分の意見を表明する貴重な機会」として

存続

・2023後半〜2024前半の協議題「東高

祭の時くらい、メイクとかを楽しみたい」

↓PTS協議会がバラバラになっってしまう原

因に

思いはあるが、「対立は望まなかった」

↓それまでに築かれていた教員と生徒の関係

・2024年後半〜「東高のより良いところ」

・今後の課題

—全校生徒をもっと巻き込んでいきたい

—教員の無関心（多忙さによるものか）、協議

会に参加することへ負担感

質疑

全国連 植田さん

・良い学校とは何か

—あいさつ、礼儀、時間を守れること

—生徒の意見だけでなく、三者の意見を取り入れながら、まとめていこうとして進めたこと

が、より良い学校への第一歩

レポート④辰野高校 丸山 末広さん、

宮下 与兵衛さん

「辰野高校三者協議会 29年の歩み」

・年2回の開催

—授業改善に向けて、生徒と教員が協働して取

り組む

（教員への個人攻撃になっってしまうこともあ

った）

—校則の改善

—施設、設備の改善

—クラス討論した生徒の意見を、生徒会執行部

がきちんと集約し、生徒総会で提案して決議

・生徒参加のない「開かれた学校」は効果なし

・参加と共同で、生徒も大人も成長する

・「自分たちでできるから、このルールはやめ

てほしい」と言ってもらいたい

レポート⑤箕輪進修高校 佐藤 優奈さん

「多部制高校の生徒会活動」

・生徒会組織はI・II部、III部に分かれる

・箕輪未来シンポジウム

—PTA、教員、生徒で行い三者協議会

—設定されたテーマをグループで話し合う



—生徒会役員が司会、記録発表を行う
—昨年度のテーマ

「誰もが過ごしやすい学校にしていくなために必要なこと」

「I・II・III部間の交流や、地域の方々との交流を増やしていくために必要なこと」

—意見の運用例↓文化祭での「ありがとうプロジェクト」

広報の方法も工夫した（役場や公民館への掲示、多言語での広報など）

◆全体討論

レポート①について

☆帝京科学大学 福田さん

・「生徒たちの今後の探求への関心、意欲は？」

—今の流れを継続してもらいたい。新年度の生徒会の子たちと話しながら進めていきたい

・「校長先生が考える自治とは」

—協働しながら進めていくこと

☆全国連 植田さん

「生徒たちの頼りどころは？」

—新生徒会の生徒たち。目指すものへの明確さがもう少し欲しい。職員、生徒と一緒に進めていきたい（定例のランチミーティングを検討）

・全国連 日向さん

—子どもたちの秘めた力に感動した

レポート②について

☆全国連 松林さん

・「折衝会での生徒の決め方に、疑問が出ることはなかったのか」

—開催期間一週間の中で、顧問（見えざる手）とも話し合いを進める。予算を決めることがルールではなく、予算を決めるためのルールを決めていくことがルール。不完全なものなので、不合理さもある。だから協議事項を次年度には持ち越さない

☆全国連 植田さん

・「部活動予算の増額も考えていけるのか」

—可能ではある。どうしても収まらない場合に増額を考えることも。

レポート③について

☆全国連 植田さん

・「なぜSPT（生徒・保護者・教員）ではないのか」

—特に意識はしていない。生徒が中心という思いは常に持ちつつ、保護者の力は欠かすことのできないものという考えがある（あった）のでは。

レポート④⑤について

☆全国連 植田さん

※特になし

◆全体を通して

・自治体とコラボした子どもの権利条約に基づき取り組み事例はあるのか

—松本市には小学生たちが市長などに提言する場がある（丸ノ内中 堀内さん）

—日照権をめぐる子どもたちの訴えが、運動につながったこともあった

—地域の課題をコミュニケーションスクールで関わっていく事例もある

・生徒の発言が攻撃的になってしまった後、どのように学級協議の持っていたのか。そうなるまでの経緯は？

—生徒会にすべて持ち上げることはやめた。方々からの意見を吸い上げることはできなくなるが、「個人攻撃をしない」というルールを作った。（クラス討議の際）担任や副担任一切口を出さない。クラスで意見をまとめて提案。すべてを提案することはしない、クラスの意味をまとめて提案する。

・良い学校とは何か

—「より良い学校」のための三者協議会であってほしい

—教師と生徒の相互理解、安心して学べる環境のある学校

—意見を出し合いながら、その時々でできることを考え合っていく（時代、学校の様相など）

—子どもの居場所がたくさんある今の時代、学校だけでなく、家庭だけで何かをしようというのには厳しくなってきた時代。そのような時代において、学校の意味を考

える必要があるのでは。

2日目分科会は

次号で紹介



第4回教文運営委員会開催 2月14日(土) ハイブリッド

日時：2026年2月14日(土)

場所：松本市勤労者福祉センター

司会：常任・吉沢道夫(長野西高) 記録：常任・鈴木実

1. 開会 議長(田澤秀子)あいさつ

・研究会の運営・参加への課題

・職場教研・自主研修の場づくりへの討議を深めて

2. 情勢・経過報告、提起(事務局)

・観点別評価の変更 次期学習指導要領2023年高校へ

提起 「授業の余白をつくる」(増単・減単、学校設定科目等)

ただし資質能力論(法定)は変わっていない

態度評定→個人内評価へ切り替わり

県教委一県立高校のさらなる特色化

色分け単純化の是非、特色化競争になっていないか

インクルーシブな教育の推進

・遠隔教育

・日本の同僚性 小中学校で低下

例)教材の共有も減っている

・教職員研修プラットフォーム Plant

正式には管制研修しか入力できない

履歴部分に任意として教文会議の研修

を入力していく

強制ではないことを確認済み

参考：「研修履歴の記録及び研修履歴

を活用した対話に基づく受講奨励に

ついて」(校長手持ち用資料)

・初任者研修制度分会アンケート

初任者の負担は減ってきているが

指導教員の負担は 増えている

・遠隔授業配信センター 5名教員

26年度実証実験：全日4 定時制3

不登校生徒へ学習機会保障型

懸念26項目：実現可能性

・特色化

「特色化」は高校再編室が担当している。



校長が勝手に決めて職員に丸投げの実態も

○提案

・日程について 資料：..

・態勢確立学習交流集会(教文新旧支部事務局局長会

3月20日(土) 完全オンライン

・第1回総合研究会

4月11日(土) 午前 授業とZ

・教文委員総会

4月22日(土) 午後

・第1回 県教研分科会役員会 ↓ 教文としての検討

・教文定期代議員会 ↓ 高体連大会等加味しながら検討

・会計のまとめについて 各研究会へのお願

・出納帳・証拠書類を本部へ残金は持参か振込(手数料も記載)

・支部会計 一括引き去り可能

・様々な理由で時間がかかることを踏まえ、26は支部で検討

支部からの名簿をもとに引き去り

○5月県教研の役員会について審議(例年GW最終日)

・平日の18時からということになると定時制の職員は出ら

れない。また、(定時制以外でも)平日だと急な業務対応

への必要が生じたとき、代役を立てることもできず、対

応ができなくなる(欠席になってしまう)のでは？

・常任委員会でも同様の意見出た。

・平日は論外。早い段階で予定立てられるよう案内してい

ただければそれに対応できるのではないか。

↓ 例年通り、GW最終日 5/6を提案

○定期代議員会 6/6の日程について審議

・県大会と重複とはいえず、すべての学校・部活ではない。

やりくりしてもらおうということだろうか

・一週後も吹奏楽県大会があり、文化祭にも影響

↓ 例年並みの6/6で決定

○『えでゆきゆる』の研究会紹介

2月末をめどに26年用原稿を。活動の写真も。

3. 支部活動総括

・資料をもとに説明

・支部によつては、25年度事務局長選出ができず、事務局体制

組めなかった。支部教文委員会で支部教研実施できず。

該当支部では、次年度に向け教文体制構築を議論中。

4. 研究会活動総括

・資料を基に説明

○特筆事項・課題

・評価方法の検証必要。研究会のネタほしい

・県教研以外の活動でできていない。正副会長のみで一般参加

に課題

・県教研スームやりにくい。義務からのレポートが多いが官製

研修からのものがほとんど。高校は逆に少ない。

・学術的なテーマだと参加者が増えた(20名)。大学の先生の

入試問題の裏話などもあり充実。教員自身が進んで勉強する機

会の必要性を痛感

・支部を中心での企画・実施に課題。

・探究へのニーズがあるという印象。

・役員体制再検討により負担軽減を追求。

・単年度にとどまらない、年度をまたいだ継続的な課題研究の

取り組みのレポート。

・NSD報告書の対象はほとんど技術系。既存校舎の改修工事

(ローリング工法)は生徒・教員の生活環境に負担。設計者

は生徒の状況を把握できているか。現場の生徒の状況を設計

に伝える必要がある(技術)

・基礎形成期過程の教諭の会員入会12名(新規・産育休代替等。

会員減少による役員負担解消のための検討部会。解決策が見

えてきた。

・全県研究会の出張参加時、学校長から根拠資料を求められる

ケースあり。提出用資料や、研修履歴・代休とれることなど

の周知資料の作成を要望。

↓討論へ(司会)

・役員負担が厳しくなってきた。

・学校統廃合で地域・子どもたちの声が無視されている。

・支部と研究会とのコラボで講演会を実施。

・外国由来生徒支援ネットワークとのコラボでの企画を検討中

・県教研の提出レポートなしが課題。

・研究会統合で、国際平和の観点に、環境問題(人間中心主義

から生態系中心主義)の新たな視点があり学びになった。

・県教研で教育格差と進路指導で合同。多岐にわたるテーマは

参集の方式でやりたい。

・役員体制厳しい。ワンオペ状態。調査活動は継続したい。

・ジェンダー平等の総合研究会は注目度高く、参加者多かった。

・オンラインの活用は大事。若い人たちも興味を示してくれる

・職場と組合内のジェンダーギャップの点検を求め。従来の

男性を中心とした働き方ではない方向、働き方改革を。

5. 討論

○出張の取扱

事務局・高教組と高校教育課との確認事項から

・支部教研・県教研・全国教研は組合的な要素強いので研修とは認められない

・「教文」の名称を発出文書に使わなければ、教特法の22条に該当するので研修として認められる。そのため、議長あて文書は研究会長名で出すなど工夫をしている。

・教特法22条を適用すると職専免になるが、これまでの経緯から、出張扱いにできることも確認されている。

・公務出張扱いにはできるが、校長によって旅費支出の対応が変わる(旅費付き、旅費別途)。出張旅費が出ない場合は教文会議から旅費を出している。

・理科全県研究会では、県の話し合いが浸透し、学校出張あり。法定研修の校外研修のB(キャリアアップⅢ)は、総合研究会・全県研究会を研修とすることが可能。

○担任手当について

・按分支給自体が目的ではなく、職場の状況を確認して困難があればそれを皆で分かち、業務が平準化できたその先に按分支給があるという考え(高教組)。

・職場の議論と意思を尊重。

・高校現場は按分支給の学校もあるが、暫定的に担任のみ支給。その後再検討が多い。義務は6割が按分支給。

・職場の中で苦勞をしている人がいないかどうか、案分支給の議論の前に、職場の在り方や業務負担の平準化の議論を。

○コラボ企画について

・コラボで活動を再開できている研究会がある。ぜひ多くの会員に知らせてコラボ企画で内容を深めてもらいたい。

・学校関係だけでなく、市民ともオンライン参加含めて幅広く声をかけて、様々な人に目のつくように知らせたらどうか。

○研究会・支部教研の工夫

・会員減少・高齢化の課題。

・研究会の在り方を4年かけて検討したという報告。体制づくり確認の具体的な状況は?

↓ 継続的に行ってきた活動であっても回数を減らす、役員体制も実情に応じて考えるなど、柔軟に対応することにした。持続可能な研究会を大事にして、できることをできる範囲で助け合っていくという雰囲気づくり。

・従来のやり方にとられない、新たな工夫は?
↓ グループメールをつくって役員内で共有するなど、情報共有を意識している。ホームページも立ち上げを検討中。

教文通信写真館 (つづき)

空気の屈折率 < 寒天(水)の屈折率 < ガラスの屈折率 > 油の屈折率 > ダイヤモンドの屈折率

寒天で作った凸レンズの周りにサラダ油を入れたのが右の写真です。光を集めず、光を広げている様子がおわかりでしょうか。

エッセイの続き

光の通り道は見えづらいので、いろいろな工夫をします。水は、石鹼水等にすると見やすくなります。今回は、寒天で白いので見やすくなっています。ついでに、固まって一石二鳥。サラダ油はアクリル絵の具をほんの少し溶かすと、光の通り道が見やすいです。空気も、煙を充満させるとわかりやすくなります。雲の隙間から太陽光が、空気中のチリや埃で散乱して見える「天使のはしご」と呼ばれる自然現象と同じような状況です。左の写真は、物理分野のレンズについて説明する時に使うものです。ガラスでは、レンズの中の光の通り道がわからないので、寒天でレンズを作ってみました。見えないものを見やすくしたい。さらに、もうひとつ工夫。実習教員の仕事の楽しいところです。

教材のアップなど。興味ある人がアクセスできる、教材の共有ができるものになりたいと考えている。これまでの教文活動は教員の輪の中だけでやってきたことを実感。業種の枠を超えて、情報交換を図っている。

○支部の状況はどうか。
・中身もよくわからないまま引き受けた経緯あり。来年度の引継ぎにも不安がある。
・支部研究会を開けない研究会があった。
・新任者に声をかけるなどの工夫。
・なかなか集まることできないが、教員が集まって食事するだけでもいい機会になった



期間限定 (3月末まで) アーカイブ配信
☆ダイジェスト版 ☆全編 (インデックス付)



パスコード: fb7ZLG1_ パスコード: fb7ZLG1_
※研究会報告は次年度

第5回総合研究会
「ジェンダー平等の教育を考える」

・集まらないことで計画も難しい。異動があったあと、どうなるか不安。
・教文について知らないから入るに至らないという印象
・校務で現場はカツカツ感。長をやらされるなら会抜けますという声もある。
・若い人はやらないし: やらなくても済んでしまう。
・職員も減っているために役員を出せない。何をやっているかわからないという声もあることが分かった。校内外への発信が重要になる。

6. まとめと閉会あいさつ (田澤教文議長)
・ここでの情報・ご意見・知見を共有できてありがたかった
・情報交流が研究活動の一助になっていくことを願っている。
・参加と共同の学校づくりをみんなで頑張つて、活動をつなげていきたい。

書籍紹介

日本の民主教育

大月書店

戦後80年、子どもの不登校やいじめ、虐待、教職員の精神疾患による休職など取り巻く状況は深刻化しているが、憲法9条、子どもの権利条約、核兵器禁止条約に確信をもち、今を語り、夢を語り、未来を語った3日間の報告集。

全体会記念講演「難民の声、家族の歴史から考えた『共に生きる』とは何か」(安田菜津紀さん)、各分科会報告など
定価3,080円↓
1,000円
教文会員特価

みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい
教育研究全国集会二〇二五報告集
〔2025年8月17日〜19日埼玉〕

日本の民主教育

憲法と子どもの権利条約がいきて輝く教育と社会を確立しよう

購入ご希望の方は事務局までご連絡を

大月書店

みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい
教育研究全国集会二〇二五実行委員会編

翻刻

世界

創刊号

昭和21年1月号

論説
 剛毅と真実と知恵とを——安田龍成
 民主主義と我が議会制度——姜尚節 達吉
 直面するインフレーション——大内兵衛
 封建思想と神道の教義——和辻哲郎
 日本農政の岐路——東郷精一
 国際民主生活の原理——横田喜三郎

創作
 灰色の月——志賀直哉
 短い糸——星見 登

岩波書店

翻刻 世界創刊号——昭和二十一年一月号

今この時だから、読む

岩波書店 岩波現代文庫

増補もうすぐやってくる尊皇攘夷思想のために

23/2/15

増補もうすぐやってくる

尊皇攘夷思想のために

加藤典洋

岩波現代文庫
文芸 349

岩波書店